

子どもの豊かな感性・協調性を育む
自然とのふれあいを大切にするドイツの園づくりツアー2016
実施レポート



日 程 2016年8月21日（日）～27日（土）

視察地 ドイツ ザクセン州

参加者 26名

乳幼児期の自然とのふれあいは、豊かな感性や協調性、創造力を育むなど、重要な役割をもっています。園庭は、活発に動き回ることによって健康を維持し身体能力を高める場所であると同時に、自然とふれあうことで、思いやる心など、豊かな感性や五感をみがく場所でもあります。ザクセン州政府は、こうした園庭の有益性を認識し、乳幼児期からの自然とのふれあいを奨励しています。2008年には、自然豊かな園庭づくりを促す「園庭コンクール」が開始されました。

本ツアーでは、全国から集まった26名の参加者の皆様とドイツ東部に位置する同州を訪れ、コンクールの上位賞受賞園を中心に8か所を視察しました。これはその実施レポートです。



視察企画：（公財）日本生態系協会

後 援：（社福）日本保育協会、（公社）全国私立保育園連盟、

（NPO 法人）全国認定こども園協会、日本ビオトープ管理士会

協 力：（株）チャイルド本社、ひかりのくに（株）、（株）メイト

自然とのふれあいを大切にするドイツの園づくりツアー2016 訪問先

1. エコロジカル保育所・幼稚園ココロレス P3
8月22日(月)



2. ザクセン州文化スポーツ省 P5
健康増進支援協会
8月22日(火)



3. ハイデンオルゲレ森の体験幼稚園 P7
8月23日(水)



4. 自然保育所・幼稚園コーボルトラント P9
8月23日(水)



5. スパツェンネスト保育所・幼稚園 P11
8月24日(木)



6. モイゼブルク自然体験保育所・幼稚園 P13
8月24日(木)



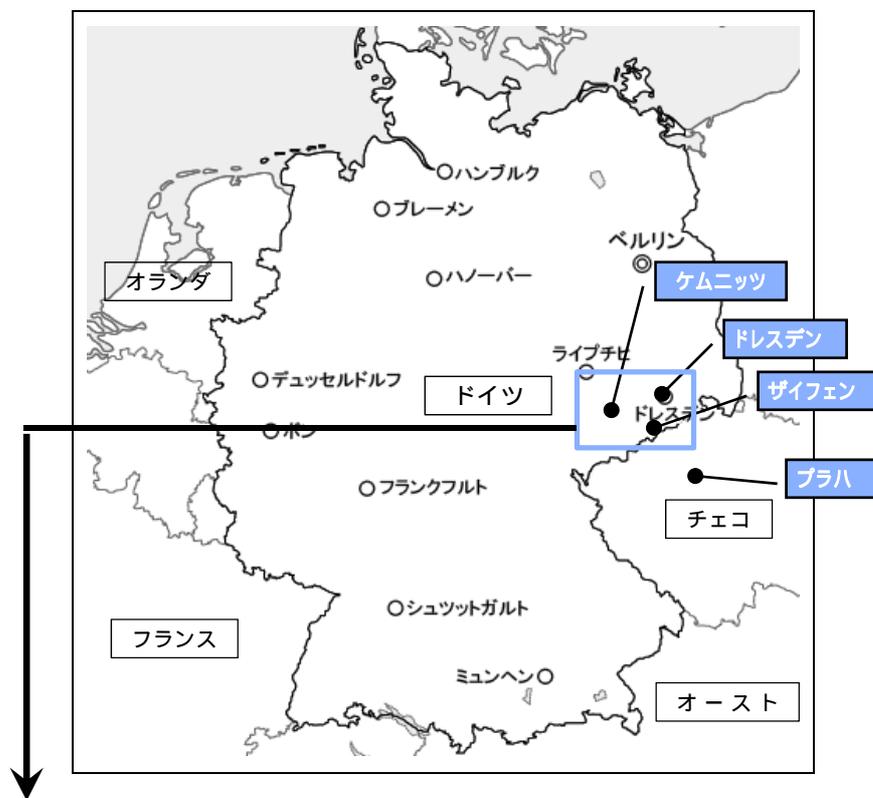
7. キリスト教幼稚園エントデッカーラント P15
8月24日(木)



8. 子どもの館プステブルーメ保育所・幼稚園 P17
8月25日(金)



自然とのふれあいを大切にするドイツの園づくりツアー2016 訪問地の位置





エコロジカル保育所・幼稚園ココロレス



「保護者の提案でつくられた園庭」

ココロレス協会が運営するエコロジカル保育所・幼稚園ココロレスは、ザクセン州の州都ドレスデン市の中心部に位置する、2010年に創設された比較的新しい園です。街中の施設ではあるものの園庭は約1,400㎡の面積があります。視察当日は、園長のクリスティーネ・レンガー氏にご対応いただいたほか、園に通う子どものご両親（カズヤさん、シモーネさん）にも加わっていただきお話を聞くことができました。

この園は、都市に住む子どもたちにエコロジカルな場を提供したいと願う保護者のイニシアティブでつくられました。1歳半から就学前の6歳までの子どもたち96名が通っており、それを20名のスタッフで対応しています。園では、年齢や言語、宗教、文化的背景、障害のあるなしなどにかかわらず一緒に過ごさせるインクルーシブ保育・教育を実践しています。社会福祉士の資格を有するスタッフもいて、障害をもつ子どもにも対応できるようにしています。また、提供している食事でも有機栽培のもののみを使った菜食中心です。

この園では、保育・教育に携わるスタッフの半数が男性です。ドイツでは過去、保育は女性の仕事とされてきたことから、現在でも男性の保育士は比較的少ないようです。しかし、男性に適した仕事や社会のなかでの男性の役割などを学ばせるために、この園ではあえて多くの男性スタッフを雇用しています。



年齢差のある子どもが協力し合って遊びます



年長さんによる本の読み聞かせ

園の建物と園庭の土地は、99年間のリース契約でドレスデン市から借り受けています。エコロジーに重点を置いた保育・幼児教育を実践するこの園では、市からの補助などが困難なこともあり、みなで協力して園庭づくりを行いました。計画から造成までを通して、園のスタッフと保護者・子どもたち、それに景観設計士、造園関係者などが加わって、自然の材料を持ち寄り、手づくりしました。

園庭の中央にある原っぱは、みんなが集う場所として重要な役割を果たしています。様々な行

事などもここで行われます。その周りには茂みや果樹、高木などの木々が生えています。子どもたちは、昆虫を観察したり、茂みを使ってかくれんぼをしたり、ハンモックの揺れを楽しみます。

第3回ザクセン州園庭コンクールで最優秀賞に選ばれたココロレス保育所・幼稚園の園庭は、大都市ドレスデンの中心地に緑のオアシスを提供し、子どもたちだけでなく、保護者や園づくりを手伝うボランティアの人々にも愛されています。園ではさらに地域に開いた場所にするために、地元の人々との交流の場などを増やして行く予定です。ドレスデンは新生児の数が多い地域ということも手伝い、入園希望者が非常に増えていとのことです。



自然の素材で作られた遊具（上）
子どもたちに人気のハンモック（右上）
心地よい日陰や遊びの材料を提供してくれる大きな木（右）



園長先生に加えて、保護者のカズヤさん、シモーネさん(正面左端)も参加してくださいました



ザクセン州文化・スポーツ省 健康増進支援協会



「遊びながら、自然に学び、体験するための園庭コンクール」

ザクセン州健康増進支援協会は、文化・スポーツ省の支援を受けて活動している公共団体です。1990年に創設され、州主催の園庭コンクールの開催や関連する補助プログラムや情報の提供、保育所・幼稚園における自然豊かな園庭づくりの支援・促進に励んでいます。事務局長のステファン・ケスリング氏と健康促進アドバイザーのアイリーン・ホルンポステル氏から園庭コンクールの取り組みや自然豊かな園の大切さなどについてお話をうかがいました。



ケスリング氏(中央)と
ホルンポステル氏(左側)



自然とのふれあいを重要視しているザクセン州では、園庭コンクールが開始される2008年以前より、学校の校庭などにビオトープを創出するなどして自然体験を奨励していました。しかし、健康増進支援協会では、小学校に入る前の乳幼児期から自然に親しむことが大切だと考えました。そこで、保育士や保護者、地元自治体を巻き込んで、自然とふれあえる園庭を競うコンクールの開催を州政府に働きかけました。この「ザクセン州園庭コンクール」には州内201園が参加し、教育関係者や健康管理の専門家だけでなく、政治家も加わり多岐にわたる方向から、取り組みの内容や成果が審査されました。このコンクールは大きな反響を呼び、2年に1回継続して実施されることになりました。

子どもたちは自然豊かな園庭で、身体的成長だけでなく、遊びの中から算数や自然科学・言語・コミュニケーションの能力、社会性などを自然に身につけることができます。この「遊びながら、自然に学び、体験する」ことを自然教育のなかに受け込ませることが園庭コンクールの重要な目的で、審査の際のポイントにもなっています。

また、他のポイントとして地域在来の植物が生えているかが挙げられています。その理由は、多様な在来植物は、野生の生きものたちに必要な餌や生息環境を提供してくれるほか、創造的な遊び道具や健康的な食材としての価値も有しているからです。また、在来植物は生命力が強く、地域の気候にも合っているため管理の手間も少なくてすむという利点もあります。協会は、州内の園に対し園内に生える植物などのアンケートを行い、必要に応じて、在来植物リストの送付や専門家のアドバイス、保育士や保護者への説明会の開催などを通じて、自然豊かな園庭づくりを促進するための取り組みを積極的に行っています。

現在第5回目のコンクールの審査が進行中ですが、回を重ねる毎に、自然豊かな園庭の価値への理解や認識が深まり、それとともに、園庭を自然豊かなものにつくりかえるところが増えてきています。健康増進支援協会が実施する自然豊かな園庭づくりの研修会には、現在までに州内の保育所・幼稚園の3分の1に及び約900園が参加し、優良事例の視察会にも多くの園から参加者が集まるとのことです。

ケスリング氏は、自然豊かな園庭づくりは、子どもたちの希望を聞きながら、保護者と一緒に進めることが大切だと語ります。子どもたちに絵や模型など年齢にあった方法で自分たちの理想の園庭を考えてもらい、それを実際にかたちづくることで、保護者や子どもたちからの維持管理などの協力が得やすくなるからです。

昆虫や野鳥、は虫類など、地域在来の多様な生きものがくらす園庭で、子どもたちは、命の大切さや生きものたちの自然のなかでの役割など、多くのことを学んでいます。





ハイデンオルゲレ森の体験幼稚園



「森には不思議な力や魅力がある」

森の魔法協会が運営するハイデンオルゲレ森の体験幼稚園は、ドレスデン市内の混交林を遊びの拠点として利用しています。2006年に設立し、現在3歳から6歳までの子ども23名を3名の保育士と1名の実習生で対応しています。

森の入口で出迎えてくれた園長のカスリン・ガッシュ氏は、森や自然の中で遊ぶ子どもの楽しそうな生き生きとした表情、活発な動きを目の当たりにして、森の幼稚園を創ることを決心したと言います。ハイデンオルゲレ森の体験幼稚園はガッシュ氏が手掛けた3つ目のもので、森のなかで自由に遊びながら自然とふれあい、様々な体験を通じて心身の健全な発達を促すことを目的としています。入園の絶対条件は「おむつが取れていること」です。これは通常の保育所と異なり、園での時間のほぼ全てを森の中で過ごすことを基本にしているからです。異常気象など森に入るのが危険な時は、森の近くにある協会の建物で過ごしますが、それ以外は森の中で遊びます。急な天候の変化などには、森の一角にあるシェルターを利用して対応します。子どもたちは毎朝このシェルターの前でミーティングをしてから森の中に遊びに出かけます。

1日のスケジュール

07:30～	集合・ミーティング
09:00～	朝食
	屋外での活動
11:30～	昼食 静かに過ごす時間
14:30～	おやつ 野外での活動
16:30	帰宅



森の中のシェルター

子どもたちは、森の中を駆け回り、木登りや丸太運びなど、活発に遊びますが、地面の起伏や環境の変化などを体で覚えているので、怪我をすることがほとんどないそうです。また、広い森を利用していますが、活動してよい場所を理解しているので、迷子になった子どもは今まで1人もいません。子どもたちには、安全を期して、笛のついたオレンジ色の安全たすきを着せています。



シェルターの横にあるランチ用のテーブル

園では、子どもたちが安全に遊び、自然から得られる効果を最大限にするための保育者向けの学習のプログラムを用意しています。プログラムでは、保育のみでなく、森の大切さや心理的なプラスの効果、不安のとりぞき方、活動の補助の方法のほか、森の管理やリスク対応、生きものの知識などについて、森の中での実習を交えながら学ぶことができます。

ハイデンオルグレ森の体験幼稚園に通う子どもたちは、森の中で自由に動き、発見し、創造的な遊びを楽しみながら、自然や周囲の環境に対する感覚や五感を発達させていきます。そして四季折々の自然と向き合いながら、自然に対する畏敬の念と愛情を培っています。そうした子どもの成長に保護者たちも大変満足しています。



自分の判断で木登りも OK です（上）

森の中でも音楽は必要です！（右）

大きなコンポストの中、今日は何の虫に会えるかな？（右上）

みんなで協力して丸太を運ぶ子どもたち（右）





自然保育所・幼稚園コーボルトラント



「自然の中で、自然とともに過ごす」

コーボルトラントは、ドレスデン市の中心から西に約7kmに位置しています。オムゼ協会が運営しているこの園は、1歳から就学前の6歳までの子どもたち131名が通っています。この園は1875年に学校として建設されたものですが、2001年から保育所・幼稚園として利用されています。広い園舎と5,100㎡の斜面を利用した自然豊かで開放的な園庭があります。視察当日は、園長先生のアンドレアス・ヴァルショー氏が対応してくださいました。

この園は、「自然の中で、自然とともに過ごす」、「自主性を持たせる教育」を基本コンセプトに、子どもたちの身近な場所である園庭に、地域の自然環境を取り入れる努力をしています。園では、景観設計士※の力をかりて子どもたちの希望を計画に移し、実際の造成作業には多くの保護者に直接関わってもらいました。盛土をした小高い丘や水遊びの場、丸太を使った遊具、大きな砂場など、五感を使った多様な遊びや体験の機会を提供する環境が整っています。また、この地域にもともと生えていた在来の樹木や草花を植栽する努力の結果、自然の豊かさは年を追う毎に増えています。

※景観設計士 (landscape architect) とは、人と自然が調和した、生きものに優しいトータルな景観設計を目指して、土地利用・植栽デザイン、管理等を行う専門家のこと



2本の大きな木を行き来できる木製のトンネル

やっではいけないこと、危険な場所など、自然のなかで遊ぶ時のルールや、バランス感覚などの身体能力を自然に身につけられるよう、木の根っこなどはあえて残しています。木登りをしてよい木もあり、それには目印がつけてあります。保育士がそばにいない方が、保育士に頼らず、自分の力でできる遊びを見極めるようになるため、かえって大きなけがをすることもなさそうです。

保護者が来園した際には、園庭を見せながら園の保育・教育コンセプトを説明し、理解を深めてもらうそうです。こうした努力により、保護者からの厚い信頼を得ています。



園庭の遊具だけでなく園内のおもちゃにもこだわりがあり、できるだけ自然の材料で、自分たちで考えながら自由に遊べるものを用意しています。



木登りをしてよい木（左）
木の形をそのまま生かしたトーテムポール（右）
橋かな、船かな、電車かな？何にでも見立てられる遊具（左下）





スパツェンネスト保育所・幼稚園



「見守る」姿勢を大切に

第4回園庭コンクールの最優秀賞を獲得したスパツェンネスト保育所・幼稚園は、ドレスデンの南西約 60km のエルツ山地に位置するチョッパウ市が運営しています。この園には、1 歳から 10 歳までの子どもたち 180 名が通っています。園庭の広さは 4,731 m²あり、多くの在来の木々や草花が繁茂しています。視察には園長のケーニッヒ氏をはじめ、市の職員の方など 4 名が対応してください、子どもたちからも暖かい歓迎を受けました。



スパツェンネストの園庭には以前からそれなりのおもしろさがありました。しかし、園のスタッフは「何か」が欠けていると感じていました。6 年ほど前、自然体験ができる園庭への改造に踏み切りました。園庭の計画は、園のスタッフに子どもたちと保護者が加わり、3 年間かけてつくりました。その後、地域のボランティアの協力も得て、1 年かけて園庭を完成させました。園庭の維持管理には、現在も保護者やボランティアが活躍しています。園庭の構想を練る際には、自然に関わる意識・知識・体験のすべてを得られることを目標にしたとのことです。

特に力を入れたのは、園庭全体の生物の多様性を豊かにすることでした。地域在来の様々な植物を繁茂させることで、斜面の保護に役立ち、昆虫や野鳥などの生きものも増え、毎日の自然とのふれあいが可能になりました。子どもたちは、自分の興味のある生きものの観察をしたり、図鑑で調べたりしています。園庭の日常的な管理を行うことで、生まれ育った地域の自然を知り、愛することを学びます。



「ほら見てこの虫だよ!」、
「どれどれっ、へえー」(左)
りっぱな虫宿もありました
(下)



1歳から10歳までの幅広い年齢の子どもたちが通うこの園では、子どもの成長段階や年齢に合わせて、遊ぶエリアや使う遊具をある程度分けています。例えば、園の敷地内にあるサッカーグラウンドは主に年長の子どもが使用します。そうすることで、子どもたちは安心して遊びに集中することができます。こうしたルールを定める以外は、「見守る」姿勢を大切にして、自由に遊ばせているそうです。それは、時には失敗することも必要だという考えからきています。失敗する前に大人が止めてしまうことで、失敗から学ぶ機会を逸してしまわないようにという配慮です。片や、成功に対しては、思い切り褒めるような心がけているそうです。

木々や草花が生き生きと変化に富んだ園庭で、子どもたちは生き生きと活発に遊んでいました。園庭ピオトープのあるこの園は、保護者にも大好評で入園希望者が年々増加しています。



砂場もブランコも滑り台もみんな木々や野草に囲まれていました





モイゼブルク自然体験保育所・幼稚園



「園庭にある自然の素材で創造豊かな自由な遊びへと導く」

モイゼブルク自然体験保育所・幼稚園は、ドレスデンの南西約 55km に位置する風光明媚な山あいの町ヴァルドキルシェンの自治体が運営しています。日本語で「ネズミのお城」という名前のこの園には、保育所に通う子どもたち 45 名、幼稚園児 45 名を、6 名の保育士で対応しています。学童保育施設も併設されており、午後には、学童保育の子どもたちもやってきます。視察では、園長のマリオン・ヴォルフ氏からお話をうかがいました。また、日本から多くの人を訪れるということで、地元の新聞記者が視察の取材に来ていました。

この園では 2002 年以來、自然教育の理念に基づいた保育・幼児教育を実践しているそうです。3000 m²ある広い園庭は山地という土地柄から、全体が急な斜面になっているのが非常に特徴的です。この斜面は、素敵な景色を見せてくれるだけでなく、雪が降ればそり遊びの場にもなり、子どもたちのお気に入りです。また、子どもたちの体力や運動能力を高めるのにも役立っています。

園庭内には、この地域に多い針葉樹や野草など、地域在来の植物が生えています。リンゴなどの果樹も多く植えられており、自由にもいで食べたり、遊びの材料に使ってよいことになっています。私たちも園庭で採れたベリーをつかったジャムのおもてなしをしていただきました。このジャムは保護者にも販売しており、とても好評だということです。



園庭は急勾配で、上り下りは骨が折れますが、毎日こんなにすてきな景色（上）が見られるし、子どもたちの体力づくりにもとても役立っています、と話す園長のヴォルフ氏（右）

園庭は、活発に遊ぶ場である一方、観察したり静けさを楽しんだりする場でもあります。幅広い子どもの興味に合わせて、この園では多岐にわたるプログラムを実践しています。園庭には一般的な遊具はあまりありませんが、枯死木を遊具に見立てるなど、園庭にある自然の素材で創造豊かな自由な遊びを展開しています。子どもたちの自由な遊びを後押しし、子どもたちの想像力や自主性を大切にするために、保育士はあえて手をかさないよう努めています。「教える」という認識ではなく、子どもの興味を「導く」ための「支援」をすることを意識しています。

こうした取り組みは、保護者の高い人気を博しているだけでなく、行政などからも評価され、2008年に開催された第1回ザクセン州園庭コンクールで最優秀賞に選ばれました、そのほか、2005年にはケムニッツ環境賞、2008年にザクセン州環境賞を受賞しています。



いまだに健在の古い井戸（上）

トンネルを抜けると、そこはおとぎの国の森（左上）

敷地の一角には、水辺ピオトープもありました（左）



テラスにて、園庭で収穫したベリーを使った手作りのジャムとラスクで、素敵なおもてなしを受けました（下）





キリスト教幼稚園エントデッカーラント



「保護者の手でつくられた発見の国」

日本語で「発見の国」という意味のこの園は、ドレスデンの南西約 50km 場所にあります。保育所・幼稚園・学童保育施設が併設され、53 名の子どもたちが通っています。インターンなども含めた 15 名のスタッフが交代で対応しています。1,030 m²ある園庭は、2011 年から景观設計士の協力を得て、園のスタッフ、保護者の代表、子どもたちによる園庭づくり作業チームを立ち上げ、計画と造成を行いました。三方向が森に隣接した恵まれた地形を生かして、園庭と森のつながりを大切にしたい計画に添って、模型をつくり、チームのみんなで共同作業を行いました。その努力が実り、2 年後、園庭は発見の国の名にふさわしいものになりました。



チームの協働作業で作った園庭の模型

理想の園を作るために、自らこの園を創設し現在も園長・副園長として運営に携わっているラッフェルト氏とブッフマン氏は、この園に通っている子どものお母さんでもあります。園内にある遊具のほとんどは保護者やボランティアの手づくりとのこと。材料も隣接する森から調達したものだそうで、無垢の木の温かさが感じられました。もちろん、安全面も考慮され、設計には専門家のアドバイスが活かされ、1 年に 1 回点検が行われています。





園庭では、いたるところに生きものたちを呼ぶ仕組みが見られました。保護者手づくりの虫宿、ユニークな木の根っこを置いただけのピオトーフ、枝をつんだピオトーフには、昆虫や爬虫類以外にも、遊びの材料を探しに子どもたちが集まってきます。

クリーム色の園舎は、周りを囲む濃い緑の森に映えて、とてもかわいらしく見えました。柔らかい光が差し込む園舎のなかも、コーナー毎に子どもたちの思いに添った工夫がなされており、創設者のお二人の子どもたちへの深い愛情が感じられました。その気持ちが伝わり、子どもの入園を希望する保護者が数多く訪れているとのこと。



エルツ山地の有名な木工芸作家の木彫りの人形（上）

お昼寝やかくれんぼなどに使われているエリア（左）





子どもの館プステブルーム保育所・幼稚園



「自然を知り、体験し、守ることを子どもたちにしっかり伝える」

ドレスデンの中心から西南西に約 90km の位置にあるこの園は、1995 年に慈善団体ファミリーイニシアティブ・ロシュニッツ協会によって設立されました。視察では、園長のシモーネ・フォーゲル氏と副園長のアイゼルマン氏にご対応いただきました。



タンポポが描かれた緑の T シャツを着て説明するお二人

日本語でタンポポの花という意味のこの園には、3歳までの子どもが 28 名、3歳から 7歳までが約 80 名が通っています。保育・幼児教育の主要コンセプトは、様々な命との関わり、自然とのふれあいで、7,000 m²以上ある広大な園庭は多様な要素ときれいな色彩にあふれています。子どもたちの希望を取り入れるために、子どもたちが設計者を合い言葉に、計画づくりにも参加してもらったそうです。

「園庭を維持していくのは大変な労力と努力が必要。けれど、この園庭には高い教育的な意義と重要なコンセプトがあります。子どもたちにとって何が最善かを考え、柔軟に対応しながら園庭の維持改善に取り組んでいます」、「6歳頃までに自由に自然とふれあって遊ぶことが、人格形成の基礎となり非常に重要です。この時期を自然のなかで過ごした子どもは、コンクリートで固められた小学校に進学しても、それまでに培った思いやりの心や協調の精神などを忘れずに過ごすことができると言われています」という言葉が印象的でした。



不思議なかたちが魅力的な遊具（左）

カラフルなスロープ。階段もあるけれど、子どもたちは好んでこちらを登ります（右）

コンクリートの塊やの廃材を利用した「小人の家」は、保護者と子どもたちの手で作られました（下）





薪の備蓄を兼ねた乾燥ピオトープ（左） 土の層や有機物の分解される様子が見えるように横が透明になっている花壇（上） 様々な虫が利用できるよう工夫した虫宿（右）

この園は、ドイツの連邦政府が全国規模で進めている生物多様性条約に関連したプロジェクト「保育所幼稚園の園庭一緒に多様性を発見しよう」の参加園でもあります。これは絶滅の危機にある多様な野生生物に対する保護の意識を幼少期から育てることをねらいとしたもので、現在、国内の約 200 の保育所・幼稚園が参加し、生物多様性豊かな園庭や自然体験などについての情報交換や交流が行われています。

「毎日の自然とのふれあいのなかで、自然を知り、体験し、守り、持続可能なかたちで活用することを子どもたちにしっかり伝える」、この取り組みが認められ、この園は、第2回ザクセン州園庭コンクールの上位4賞に選ばれました。取り組みへの反響は大きく、子どもたちだけでなく、保護者の絶大なる支持も得ています。



園庭だけでなく、園内いたるところに子どもたちが楽しめる仕掛けが施されています。

部屋から部屋へ移動するための網状のシューター（上）

乗ると体温で色が変わる液晶パネル（左）



日本生態系協会では、今後も、自然と文化が共存する美しいまちづくりのシンクタンクとして、自然を生かした保育・幼児教育の充実を支援してまいります。研修会の講師派遣、自然を活かした園づくりのコーディネート、そして個別の海外視察ツアーの企画など、みなさまのご要望に応じて対応いたします。お気軽にご相談ください。